

「みなみちゃんまつり」

7/15

ねらい:小学生を対象としたお祭りを通して、日頃の部活動の成果を発揮し、地域の人々との交流を図り、地域の一員としての自覚を高める。

- 自己有用感を高める
- 他者と協働する力を高める
- 学校や地域の一員としての自覚を持たせる
- 様々な活動に意欲的に参加できるようになる

当日に向けた準備

- ①演劇部 絵本「はじめてのおつかい」を題材に小学生向けの劇の上演を企画。
- ②茶道部 小学生対象に、お作法を体験できるお茶席を企画。
- ③科学部 スライム作りコーナーの準備。
- ④合唱部 有志参加の生徒を募り、昼休みに計12回の練習を実施。
- ⑤バスケットボール部 「フリースロー」と「玉入れ」コーナーの準備。
- ⑥将棋部 参加者との対局や回り将棋などのゲームを企画。
- ⑦美術部 お絵描きコーナーの準備。
- ⑧ボランティア係 「ミニうちわ作り」「魚釣り」「ヨーヨー作り」「おりがみ」コーナーを用意。



みなみちゃんまつり

当日

- ①演劇部 体育館と校舎内で2公演を実施。
- ②茶道部 3席(1席20名)のお茶席を実施。
- ③科学部 200名分の材料をすべて使い切るほどの人数が参加。
- ④合唱部 オープニングで「夏の日贈りもの」「時の旅人」の2曲を演奏。その後、社会人合唱の団体と共に「Believe」を演奏。
- ⑤バスケットボール部 参加者の年齢に応じて、難易度を工夫して実施。
- ⑥将棋部 参加者と共に将棋やゲームを実施。壇上で詰将棋の解説。
- ⑦美術部 大きな紙に参加者が自由に画材を選んで絵を描き、参加者全員で1つの作品を作成。
- ⑧ボランティア係 ゲームや工作など、各コーナーの運営。



成果

- ・コロナ前は南部地域センターで行っていた「みなみちゃんまつり」が本校で開催されるようになり2年目を迎えたが、昨年参加していた生徒は経験を生かし率先して活動することができた。
- ・学校は「みなみちゃんまつり」を通じて地域や保護者の方と協力し、地域の子供たちが遊びや体験を通して交流する場を設けることができている。
- ・日頃の部活動の成果を披露することができ、生徒は達成感を得ることができた。
- ・生徒は成功体験を通して、自己有用感を高めることができた。
- ・お茶席の体験を通して、作法やマナーを参加者に説明し、日本の伝統文化を紹介することができた。
- ・当日に向けて部活動に取り組む中で、練習や準備の積み重ねの重要性を実感した。
- ・小学生に説明する体験を通じて、分かりやすく話して伝える方法について試行錯誤する経験ができた。

課題

- ・当日の運営をスムーズに行うために、タイムスケジュールや予算について主催である青少協の方との打ち合わせをよりしっかりと行っていく。
- ・有志参加者を募った活動は昼休みでしか練習することができず、結果、生徒の昼休みの時間を十分に確保することができなかった。来年度に向け、準備の時間の確保を検討していく。

